

袋井市総合教育会議 会議録（要旨）

| | |
|---------------|--|
| 会 議 名 | 令和 7 年度 第 2 回総合教育会議 |
| 招 集 日 時 | 令和 7 年10月15日(水)午後 1 時30分 |
| 会 議 時 間 | 午後 1 時30分から午後 3 時28分まで（1時間58分） |
| 場 所 | 教育会館 3 階 ICT研修室 |
| 出 席 者 | 大場規之 市長 鈴木一吉 教育長 鈴木万里子 委員 溝口知秀 委員 吉田陽子 委員 （計：5 人） |
| 欠 席 者 | 無し |
| 傍 聴 者 | 無し |
| 当 局 出 席 者 | 石黒克明 石黒教育部長 小澤一則 教育監 山岡ゆかり 教育企画課長 平野邦孝 未来の教育推進室長 渡邊規恵 教育企画課課長補佐 廣岡真理 教育総務係主任主査 （計：6 人） （合計：11人） |
| 会議に付した 事 件 | 別紙「令和 7 年度 第2回袋井市総合教育会議次第」のとおり |

令和 7 年度 第 2 回袋井市総合教育会議 次第

日時：令和 7 年 10 月 15 日（水）

午後 1 時 30 分

場所：教育会館 I C T 研修室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 議 事

袋井市教育大綱の改定について

(1) 改定案について

(2) 意見交換

4 閉 会

令和7年度 第2回袋井市総合教育会議(要旨)

1 開会

●教育部長

少し早いですが、皆さんおそろいになりましたので、只今から令和7年度第2回の袋井市総合教育会議を開催させていただきます。よろしくお願いします。

また、本日、山本委員にあつては諸事情により欠席とのご連絡をいただいています。よろしくお願いいたします。若干こう寒さを感じると言いましょうか、暑さが終わりました、今日も少し雨が降ったなということで、これから小学校の運動会が来週の金曜日の、袋井北小学校を皮切りに10月、11月にかけて行われる時期となりました。天気だけが心配ですが、なんとか持っていて、子どもたちが楽しみにしている運動会ができればということで、教育委員会としては感じる今日このごろでございます。

本日は、第2回目となります総合教育会議ということでよろしくお願いいたします。

2 会議録署名委員の指名

まず、会議に先立ちまして本日の会議の会議録の署名委員でございますが、2人を規則により議長が指名することとなっておりますが、事務局からのご提案として、鈴木委員と吉田委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

●鈴木委員 吉田委員

わかりました。

●教育部長

ではよろしくお願いいたします。

3 市長あいさつ

●大場市長

改めまして、皆さんこんにちは。本年度第2回の総合教育会議ということで、お忙しい中お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。石黒教育部長の方からもお話ございましたように、暑さにも別れができて、涼しさが感じられる今日このごろだということでございます。そんな中、秋の祭典も迎えられまして、子どもたちも多く参加していただきました。お祭りは老いも若きも、そして男性も女性もなく交流ができて、地域をつくっていく本当に大事な行事だなと改めて感じた次第であります。多くの子どもたちがそこでいろいろな学びをしたのではないかと思います。

一人でも多くの子どもたちが、そうしたお祭りにも参加できるような地域こぞって、みんなが集まれるようなお祭りが、これからはしっかりと守られて、引き継がれていくことが望まれるなということも改めて感じた次第であります。世代間の様々な隔たりなども感じるようにはなっておりますけれども、お祭り等がそうしたできるだけ垣根を取り去りながら、子どもたちのみならず、大人の世界でもやはり世代間のギャップを感じるような世の中になっておりますので、そうしたことがお祭り等で緩和されて、より良い地域ができ

ている、そんな地域を目指していかなければいけないと改めて感じた次第であります。体育祭の話が、先ほど教育部長の方からもお話がございましたけれども、開催が予定されている学校もございます。その他にも文化祭、その他、もろもろですね、秋の行事がこれから予定されております。天候にも恵まれて、秋らしい様々なイベントが開催され、そこで子どもたちの成長がまた確認され、また発揮される、そんな秋、そして冬に向かう季節でございますので、いい時期を迎えられればと思っているところでございます。皆様方のご支援も、そうしたところでぜひよろしくお願いしたいと存じます。

行政的にはですね、10月に入りまして、9月議会も先週終了いたしましたけれども、昨年度の決算が承認をされて、いよいよ来年度の予算について作成と、ということになります。大変厳しい財政状況でございまして、職員には、今一度新たに気持ちをすること、そしてマタリセットをするという言葉を使っておりますけれども、様々な分野、様々な点で業務その他を見直す中で、守るべきものは守り、変えるべきものは変えるという視点で、予算編成に臨むようにということで指示をしているところでございます。教育関係の予算も大変多額なものになっておりまして、その中での予算編成、皆様からいろいろなご意見をいただくケースもあろうかと思っておりますけれども、ご協力よろしくお願いしたいと思っております。大変、この一年話題になっております体育館への空調エアコン設置でございすけれども、これに関しましても、来年度に向けて準備を進めていきたいなと思っているところでございまして、今後、このエアコンにつきましても、出てこようかと思っております。財政が厳しい中ではありますけれども、いろいろと工夫をしながら取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

今回の総合教育会議では、前回、皆さんから頂戴いたしました様々なご意見を整理いたしまして、新たな教育大綱の素案を作成いたしましたので、より具体的な議論を深めながら、最終案の策定に向け、意見交換をさせていただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

●教育部長

大場市長ありがとうございました。

それでは、会の開会にあたりまして、内容の確認をさせていただきます。ただいま市長からお話がありましてとおり、本日は前回7月16日に開催をさせていただきました総合教育会議に続いて第2回目ということで、前回いただいた意見をもとに、事務局として、教育大綱の改正案を作成させていただきました。その内容を本日、事務局から説明をさせていただいて、各委員からご意見をいただくという流れで進めてまいりたいと思っております。

それでは、議事に入りますが、ここからの議事につきましては、市長の方で進めていただくようお願いいたします。

4 議事

袋井市教育大綱の改定について

●大場市長

はい、それでは議事に入らせていただきます。

袋井市教育大綱の改定についてでございます、こちらの協議をお願いしたいと思っております。事務局から説明をお願いいたします。

●山岡教育企画課長

それでは私の方から、袋井市教育大綱の見直しについてご説明させていただきたいと思っております。前回の総合教育会議では、皆様から本市の教育の現状や方法の向かうべき方向を幅広い角度から様々なご意見を頂戴したところでございます。そういったご意見も踏まえながら、次期教育大綱としての改定案を事務局にて整理いたしましたので、本日はこれを最終に向けて固めるべく、ご意見の方を承りたいと考えております。お手元にはこちらの新旧対照表のような教育大綱の改定案、それから前回の会議の振り返り、それから国県の情報、それから本市の教育行政の体系図をお配りさせていただいておりますので順を追ってご説明させていただきたいと思っております。

はじめに、前回の協議の振り返りでございます。もうすでに皆様にもお手元にお配りしてありますので、お読みいただけたかと思っておりますけれども、前回はいった案をとということではなく、フラットな中でいろんなご意見を頂戴した会となっております。大きくは、二つに分けて整理をさせていただきますと、前回の総合教育会議では、教育大綱の位置づけを改めて確認するとともに、これまでの教育について振り返りしていただきましたけれども、大綱については、太字で書いてあるような形で大きな流れとしては、そんなに国も県もトレンドとしては変わらないけれども、表現や内容は見直す必要があるよねとか、大綱というのは羅針盤のような大きな目指すべきものそういったものですよというようなご意見、それから現在のタイミングに合わせた表現や優先順位、そういったものは見直す必要がありますね、心ゆたかな人づくりというのはもちろん根底にあります但し今の時期に即した表現にかえる、こういったようなご意見が出ていたかなと思っております。

二つ目としまして、目指すべき方向、重視すべき視点、こういったところで、新たに国や県でも言っておりますが、一人一人、どの子も誰も取り残さないこういった視点。それから地域全体で子供たちを育てるといったような地域でというような視点。それから、就学前教育の大切さや生きづらさ、こういった声を抱える人が増えている。それから裏面に参りまして、一人一人がその人らしく生きること、地域の人が学校を支える。それから一緒に育つ、地域みんなで支える。リアルな体験や人との関わりの重要性。それから大綱というのは芸術的な部分においても、子育てだけでなく大切だねというようなこと。それから、違うということを違うとか特別と思うことはなく、共生教育、一番大事な思想ですね。寛大な心とか寛大な地域である。心ゆたかな人づくりというのは、幼少期からが大事だというようなご意見をさまざまに頂戴したところでございます。それを踏まえまして、国や県の動向、これは1回目の時にも少しお配りをしてありますけれども、もう一度、改めて少し主なところを確認させていただきますと、上段は国が示します第4期の教育振興基本計画です。下段は県が定めました教育大綱、今年の3月に改定したのになります。国のコンセプトとしては、持続可能な社会のというところですね。それと社会の創り手、みんなが構成員というような視点だと思います。それからウェルビーイング、個人であっても社会であっても、みんながそれぞれの視点で幸せだ、それから学校や地域のみんなが自己肯定感。そういったところがうたわれている中で、特に異本方針の中では、2番

に誰一人取り残されず、共生社会の実現に向けた、こういった文言も出てきているところでもあります。下の県の方を見ても、国の考えを踏襲しつつ、やはりウェルビーイングの視点、こういったところが出てきております。その上で、すべての人の学びを支え、地域ぐるみでそういったような要素も入ってきているという状況になっております。

やはり、お配りは特にしてないですが、前回、今の教育大綱を作成した時にも、今言ったような、皆様にご意見頂戴したような要素というのは、さらに深掘りして出てきたものもありますが、大きな方法としては、やはり同じような意見が頂戴しているものがございます。やはり時代とともにそんなに大きなものは変わらないが、心ゆたかといったことはいつの時代も求められているねと言いながらも、自分らしくとか、ありのままの自分で個性を伸ばして、社会の一つにつながってといったようなご意見は、前回の中からも出ていたものでございました。その上で、改めて袋井市の教育行政はどんな体系で進んでいるのか、こちらの体系図でもう一度確認をさせていただきたいと思っております。

最上位に、現在ご審議いただいている部分になりますが、教育大綱、この理念と基本方針を掲げてございます。教育大綱は市の教育行政の最も高い位置掲げるものになりますので羅針盤として教育大綱、そこで目指すべき思想、あるべき姿として基本理念を一番上に置き、これを実現するための方向性として基本方針が上に乗っかっているものになります。

その下に、それをどういった方策で進めていくのかという基本計画として、今現在、新しい総合計画の方を策定しているところでございますが、九つの分野別の政策にそれぞれ構成している総合計画のうち、教育に関する四つの政策を取り出して位置づけて、それぞれの事業や業務についてより具体的な取り組みとして整理しております。その下に関連計画でございますが、それぞれの政策をより実行していくために、より具体的にどんなことをというような個別計画になってまいります。それがそれぞれの政策の下に位置づいて、具体的な取り組みを進めて体系的に取り組んでいる。総じてこれを全部で教育振興基本計画という位置づけの中で、いろいろな取り組みを進めている、そういった流れになっております。これを踏まえまして、先ほどの3番目のものですが、次期教育大綱の改正案としてまずは事務局でこれを具体的にしましたので、これを最終系に向けた忌憚のないご意見をいただけたらと思っております。先ほども申し上げましたように、教育理念、その理念は、教育として何を大事にするべきか、どうあるべきか、これにつきましては、ある種の普遍性や絶対性もあるものだということで、これまでの議論を深めまして、引き続き心ゆたかなひとづくりこれも検証する形でおかせていただきました。しかしながら、これを補足するリード文これに皆様のご意見いただいた今の状況や、さらに重きを置くべき視点、こういったものを入れ込んで見直しを図っております。例えば、前のところでは、先行きを見通すことが容易でないこれからの新しい時代を迎えるにあたり、これは5年経ってもそういう時代に入っているということで、その辺の表現を変えております。また、前回委員の皆さんの中では、やはり誰一人取り残さない、そういったご意見も強く頂戴しましたので、この部分は基本方針でなく、理念のところのリード文のところ全体を統括するということで、位置づけながら、さらに個性や能力を発揮しながらというような文言も加えてございます。前回ちょっと議論になりまして、また今回、そのところも少しポイントとしてお話しいただければと思いますが、前は生き抜くことができるよう、こういった表現も使ってございました。今回の中では、少しそういったところが、弱い方だったり、圧

力や少し重たい表現もあるのではないかというご意見もありましたので、今回の中では「生きる」というような表現の中で書いてございます。こちらのところもいろいろお考えがあると思いますので、またご意見頂戴できればと思います。それを踏まえて、心ゆたかな人づくりを具現化するための3つの方向感というものが、引き続き、「自分が自分でいられるありのままの自分を」という一番の自己有用感、自己肯定感を育む。それから、我々教育委員会としても大事にしております個別最適な学びと協働的な学び、こうしたところの自ら行動する力と他者と協働する力を身につける。それから、大人も子どもも誰もが社会総がかりで学びを続け、支え合う。そういった環境のことが必要だよねというところで、学びたいときに誰もが学ぶことができる環境を整える。この基本方針はそのまま据え置く形としております。

しかしながら、先ほど申し上げましたように、今の時点で必要な要素、そういったことを右側のそれぞれの基本方針のページに、緑色でキーワードという形でそれぞれ少し注意させていただいておりますが、こういったところは特にこれから意識していく部分であろうということで、こういったところを少し見据えながら、いいところで表現を見直し図っております。基本方針1として、心ゆたかな人づくりを進める上で大切にすること、自己有用感と自己肯定感を育むこと、そこの部分では、正解は特に幸せの定義のようなことを冒頭で述べておりましたが、そこは前提に立って、特に今回の中では共生教育、子ども真ん中、そういった視点を入れ込んだ形で見直しをしているものであります。さらにそこの部分で注釈が必要な部分につきましては、下線の下に、それぞれのページもそうですが、補足という形で少し詳細な意味合いのようなものを入れさせていただいております。次のページの基本方針の2の方へ移っていただきますと、2は心ゆたかな人になるために身につけたい力として、自ら行動する力と他者と協働する力を身につけるとしてございます。その中のリード分では、前回は先行きを見通すことが容易でないこれからの新しい時代、人生100年時代、そんなような表現がありましたが、ここを持続可能な社会の作り手となると、みんながみんな構成員なんだよという要素を加えながら、少し表現を変えております。それから前回は確かな学力、それから粘り強さやチャレンジ精神といった非認知能力、こういったところも記載がございましたが、このあたりの表現を少し差し替えまして、いわゆる学びの三要素となる、身につけなければならない資質や能力をバランスよく兼ね備える、こういった表現に変えております。さらに共生社会の実現、こういったワードもこの中では入れ込んでまいりたいと考えております。それから基本方針3です。次のページになりますが、心ゆたかな人を育てるための環境風土でございます。学びたいときに誰もが学ぶことができる環境も整えるということです。こちらの方は大きく変わりはないですが、ウェルビーイング、そういった視点であったり、特に社会総がかりで、子どもの学びに大人が関わる、大人も学び続ける。支え合って、社会総がかりでどの世代も学び続ける環境を作っていく。こういった視点で少し見直しを図っているところでございます。以上、雑駁ですが事務局からいろんな考え方でということでご説明をさせていただきました。正直、どのキーワードをとりましても、相互に関連し合っておりますので、事務局でもかなり迷いがございます。そのあたりも本日の会議の中で皆様からご意見を頂戴できればと思います。また、どこに入れても間違いでも正解でもないような部分もあるのですが、特にこうすることで、伝えたいメッセージがどんなふうにしたら伝わるかといった

ところでご意見頂戴できればと思います。今回、今日いただいた形を仕上げてまして、パブリックコメント、こういったところに図って最終形として仕上げてまいりたいと考えていますので、ご審議の方よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

●大場市長

ただいま事務局から説明がございました。この内容を踏まえまして情報交換、意見交換をしてまいりたいと存じます。今日は、3時20分くらいまでを本話題1テーマで取り組んでいきたいと思っております。これ以外の細かい事例はございませんので、ゆっくりと、しっかりと議論を深めていただきます。

それでは、今説明を受けて率直な感想であったり、感じたところはもちろんですが、ご意見等があれば、まずはお聞かせいただければなと思っております。

●溝口委員

先ほど市長もおっしゃっていましたが、リセットというところもあって、もう1回今の大綱ができた時とそこから4年経つのですかね、その間どんな風に変わってきたのかなっていうのもちょっと思っていて見てたら、やっぱり子どもが減っている。それから親も働きに出る人が増えている。老人が増えている。逆に先生のなり手が減っている。なり手が減るということは、先生の資質も落ちているのかなとかですね、いろんな状況が多分変わっていると思っています。まあそういうのも本当は考えながらこういう大綱って見直していかなきゃいけないのだらうなと思いますが、意外と心ゆたかな人づくりということは、特にあまり変える必要はないのかなと思っております。

一点、色んなところで出てきている、前回の話でも出てきているところで、もうちょっと表に出したいなと思っているのが、やっぱり共生というところで色々なところで出てきているのですが、やっぱり1ページ目にもう少し前面に出す時代になったのではないのかなというふうに思っています。個人的には、例えば考えたのは「心ゆたかな人とは」というところで3項目を挙げてくれています、やっぱり今、心ゆたかというのは、いろんな人をわけ隔てなく扱えるとか、そういう共生社会のことをきっちり理解して実現、実行できる人みたいのがここに入ってくると、もっともっと具体化してくるのかなというのが一つ感じたところ。あともう一個、これは細かい話になりますが、基本方針の3番のところに、学びたいときに誰もが学ぶことができる環境を整える。前回の内容を踏襲して、今回行こうかなという話をされていますけれども、ここの3番だけはなぜか理念というよりも、どっちかという教育委員会の仕事がかかれていたような感じを受けています。この書き方であれば、前回整えると言ってきたところが、どう変わっているか、整ってきたのかどうか、この辺を踏まえてですね、もうちょっと文言書いて新しい表現にしないか、何も進歩がないなというふうに見えちゃうなというところがちょっと気になったところ。それからもう少し下のレベルの話として、先ほどちょっと言いましたが、やっぱり先生方のなり手がいないとか、資質の問題ですとか、我々もいろんな学校を見させてもらっていますが、素晴らしい授業をやられているなと思うのもある一方で、まだまだかなとした授業もあるなとか、こういう感じも受けないわけではないということで。先ほどの県の教育大綱の資料で、静岡県における教育の基本理念の一番右

の下、取り組み方針の下ですね。ここに学びを支える基盤づくりということで、教職員の資質向上云々という話を出してくれています。ちらっと他の市町の教育大綱を見ていると、やっぱりここの教員の資質の話を挙げている市町がそこそこありました。やっぱり子どもたちの教育を見て、それから最終的に心ゆたかな人づくりにつなげていくためには、やっぱり教員がもっとしっかり、今しっかりやってないわけではないですけどね、もっとしっかりやっていかないと、心もとないなという感覚を持っておりますので、もうちょっと下のレベル実行レベルのところで、そういう内容が入ってくると嬉しいなというふうに思っています。ちょっとまとまってないですけど、今のところそんな感じを受けております。

●吉田委員

基本理念、心ゆたかな人づくりはもちろんこれでいいと思っていて、リード文に「誰一人取り残されることなく」という文言が入ったのは、それが根底にあるのが示されてよかったと思っています。基本方針として大切にすることを身につけたい力、環境風土っていうこの3つの柱にまとまっているのはいいと思いますが、やはりそこに出てくるこの文言は今の時代に即して変えた方が、より今の私たちが教育に対してどう思ってるかというメッセージが伝わりやすいと思っていまして、例えば一つ目の自己有用感と自己肯定感は、今の教育大綱が作られた時の会議録を拝見したところ、自己肯定感が大事だよねというお話があって、自己肯定感を持つためには自己有用感があるとそれを持ちやすいという議論の中でこの自己肯定感と自己有用感という話が出てきたようなのですけれども、この自己有用感、社会に役に立っている自分を感じるような意味合いになると思うのですが、今の時代それを求められると生きづらさを感じる人が多いかなというのは肌感覚でありまして、その役に立っている・立っていないじゃなくて、ありのままでいいというのを認める他者への寛容さ、寛大さ、前回にも出てきました。そこをもう少し謳えば、ありのままでいいのだから自分もいいよねって自己肯定感につながるような気がして、ちょっとその自己有用感の扱い方をえ直した方がいいのではないかなというのが一つ目の感想です。もう一個基本方針3番目の溝口さもご指摘されていて、私はちょっと違った角度からこの文言を変えた方がいいのではないかなと思っていまして。この3番目、急に幼小中一貫教育って出てくるなっていうちょっと唐突感があるのですね。学びたいときに誰もが学ぶことができる環境なのに、学校が急に出てくると、ちょっと違和感がありました。例えば今って学校に通えない子も多様な学びを保障しようねという流れの中で、もちろん学校教育としてこれ大事にしますのはもちろん大事ですけど、そうじゃない子も包括していくような、そういった理念にしておかないと、ちょっと今の社会にそぐわないような気がしている点と、教育大綱って教育全体だから、子どもだけじゃなくて、大人でいう生涯学習っていうのとか、文化的なところも含めていくものだと思うのですよね。その点がちょっとこのままだと薄いじゃないかなっていうので、この3番の学びたいときに誰もが学ぶことができる環境を整えるところのこの中の文章が若干ずれを感じているところです。なので、やっぱり文言はもうちょっとみんなで議論して、練り上げていけたらいいなというのを感じています。以上です。

●鈴木委員

言いたかったことは、溝口委員と吉田委員と全く同じようなことですが、大きな基本理念として心ゆたかな人づくりということですか。これは普遍的なものであり、ここへ行きつくのだらうなと思うのですが、やっぱり今の時代にこう生きづらさを感じている子もいるし、実際にこの４年間で不登校の子の数も増えているし、不登校ではなくても教室に入れない子もいるし、学校教育じゃないところで学んでいる子たちもいると思うのですよね。子どもど真ん中っていうことを歌うし、共生を歌うなら、もっともっと子ども中心なところに基本理念を置きたいと思うのです。で、まとめるとこうなるのかもしれないですけど、もうちょっと基本方針のところは変えてもいいかなと思っています。で、やっぱり、さっき吉田委員が言ったように、前回は自己有用感と自己肯定感どちらを前に持ってくるかという論議があって、やっぱり役に立って初めて肯定と言うのだけど、そうではなく私はやっぱり生まれてきてくれたことで、あなたのそこにいることが大事なのだよって、そこに価値があるのだよ。今生きているということを全面に出してやりたい。で、それは教員の質の問題に向かっている。教員も何かあった時に、この子のために何かしてやろうというところ、自分の都合のいいように授業を進めていくのではなくて、この子にとって何が必要か、そこを第一に考えていくことが袋井の教育の一番元になっているというのは感じたので、それが現れるには、ここの最初のところに自己有用感、自己肯定感とか、その次もちょっと練り直す必要があるかなと思いました。で、この前の意見を入れて直していただいたのですが、社会の担い手で将来子どもたちが成人して税金を払えるような人間になるというのは目標だけど、なかなかそこに目標を置けない子もいるし、そこに価値観を持ってない子もいる。それが社会の担い手だけど、ただ、気持ちの面でそれが苦しい子もいると思って、だからここは社会の創り手の方が、国の方の社会の創り手の方がびったりくるかと思っています。やっぱり何を求めているかというところをもっと理念の中で表せると嬉しいなと思います。前に総合計画の課題で外国人の数が多いからそれを課題として捉えるのではなくて、そこをプラスとして考えていくことがやっぱり共生だと思う。外国人がこれだけ増えている。袋井だからこそこできることはいっぱいあると思うし、子どもたちが教室に外国人の子がいっぱいいることで学び取れる部分があると思うので、そういう部分を求めていきたいなとこれ見て感じました。

●大場市長

今、様々なご意見をいただきまして、率直なお考えをお伺いしまして、ありがとうございました。事務局に確認をしたいのですが、今日はこの会議終了時点で目指すところは、言葉、例えば基本方針の２番、文を変えようとしたときに、文をこれにしましょうっていう文章まで決めなくても、こういう方向がいいよねとしたものを決めておけば、また言葉は後日決定っていう、そんなプロセスでいいんでしょうか。それか、この会議でここまでは決めてもらわないとというところはありますか。

●教育部長

より具体的であればそこをいただきますし、まだ今日決定ということではなくて、この後市民意見を聞くということがありますが、この会議の趣旨としては、今年の２回３回は

この会議で決めていきますので、より具体的にここはどうしてもこの表現だということであれば、それを事務局として参考にしながら、次回までまとめていきます。

●大場市長

今お話をお伺いしていると、基本理念としての心ゆたかな人づくり、これは概ね良さそうですね。ということですが、基本方針1、2、3とありますが、これは言葉として恐らくいろいろな変えた方が良さそうだと、という印象を私は受けました。そういうことからすると今日は、まずはこの基本方針1、2、3、これを次回まで決めるにあたって、最終案を出すにあたりどんな思いを込めて言葉にしたいか、ある意味、こんな方向性で行こうよ、みたいなことをこの大きな基本方針としての1、2、3、で意見を出していただいて、言葉までは決められないかもしれませんが、こんな方向でどうでしょうかぐらいの内容に決めていくと。そんなことでいいでしょうか。まず、方向性ぐらいをこの1、2、3の方針に決めて、最終的な言葉としてのフレーズとしての案は、次回改めて提出していただくということでもいいでしょうか。

●鈴木教育長

今日フレーズがある程度固まれば、それはそれでありがたいと思うけど、なかなか固まらないかもしれないので、委員さんから出た意見を事務局で整理をして、皆さんにお知らせしていくことになると思います。

前回の資料を見ていただくと、基本方針は大切にすること、身につけたい力、環境風土と3本柱で書いてあるので、それでいいですかとの確認が最初していただければ、後の表現は思いを汲んで整理していく話になるかと思います。前回、多分こういう大切にすること、身につけたい力、環境風土っていうところをこの三本柱で行こうという議論はあまりなかったと思うのですが、事務局で整理したときに、多分前回の会議の議論を見て、こういう整理だなと思ったので、この文章を全く取ってしまっても構わないと思います

●鈴木委員

これって主体は誰ですか？

●鈴木教育長

みんなです。

●吉田委員

そうするとこの基本方針3の「整える」の表現は少し違うのかなと感じますが。

●大場市長

この3番に関しては主体が違いますね。なんか3番だけはちょっと違うな。要は提供する側の姿勢を示すものなのでしょう。そういう構成でもいいのか、それも含めて、まずはこの1、2、3の主体を誰だということに重きを置きながら、それぞれ1では、大切にすることは何だ、そして2番目では、身につけたい力って何なの、そして3番としては、さっきの

主体的に提供する側としての環境風土というのはどうあるべきなのか、それでいいのかどうか、ちょっと議論しましょう。どうでしょうか。

概ね、この3つに関してはそんなに大きな、認識の差というのはなかったけども、今言ったその主体が誰ってところがわかりにくい。そういう感じでしたね。

そのあたりでいいでしょうか。

●吉田委員

すみません、この「心ゆたかな人づくり」の主体がみんなということは、子供は自分を心ゆたかな人になろうとする、自分がその人を作る、自分でその人になろうとするみたいな気持ちになることですか。だからみんなというと、人づくりというと、どうしても教育を整える教職員側のイメージになっちゃうのですね。

●大場市長

個人的な意見ですけど、教育大綱ってやっぱり教育をする学校現場というものもありますけど、教育って学校の、学校教育だけじゃなくて、社会教育もあるし、家庭教育もあるし、教育ってすごい広いと思います。ここでいう教育大綱は、基本は学校教育にありながら学校教育は家庭で支えられ、社会教育にも支えられていると。それらを包含した意味で、教育全体ってどうあるべきなのということが、ここに理念としてあるべきなのだろうと思うのです。ということは、やっぱり社会として、ベースとして、社会教育あり、家庭教育あり、学校教育ありなので、社会として子どもたち、どういう子どもたち、子どもになってもらいたいのか、そういう環境をどう整えていこうかということの理念がここへ来ていいのではないかなと私は思うのですけどね。

●吉田委員

そうすると、大人の考えを子どもにあげるみたいな。子ども真ん中とは何か。

●大場市長

あげるのではないと思いますけどね。

●鈴木教育長

子どもたちも社会の一員ですよ。多分、自ら作り上げていく学び、子どもたちにも共通することだと思いますよ。市長が仰っていましたが教育は広いので、共通理念をどこか一方の視点というのはなかなかいかなものかって感じします。社会教育だったり家庭教育だったり、いろんな教育を包含するみたいな話になってくるはずでしょうから。だから、あえて主語ってなかなか難しいなって思います。教育委員会は、教育はと書いた瞬間に、もう一方通行になってしまうわけで、いやいや、そうじゃないですよ、自ら学ぶ人だっているでしょうし、子どもたちだって自ら学ぶでしょうから、と思うので、あえて主語をつけないという感じはします。

●溝口委員

教育長すみません。あえて、今基本方針の網掛けしてある部分に主語をつけてみたのですが、例えば1番のあみかけのところ、心ゆたかな人づくりの前に「袋井市民が」ってつけた場合、袋井全員ですね、心ゆたかな人づくりを進める上で大切にすることちょっと合わない。やっぱりここのあみかけの部分の言葉を見ちゃうと、これはやっぱり我々教育に携わる人たちがやることというようになんとか読めてしまうのですが。

例えば2番目の網掛けのところは、例えば袋井市民が心ゆたかな人になるために身につけたい力、これなんとかスッキリします。1番上はちょっとこの網掛けの部分の文言がどういう主語をつけるかで、なんかすっきりしない文章だなというのは、話を聞いていて感じました。3番目、例えば袋井市民が心ゆたかな人を育てる、ちょっと違うかな。この三つの網掛けの部分の言葉がどこに向いて言っているのか。なんか統一性がないのではと感じてしまいました。

●鈴木委員

私は「子供が」だと思っていたのですが。

●溝口委員

そうなるとやっぱり1番のところは「子供が心ゆたかな人になる上で」とかね、そういう表現の方が、はっきりするけど、人づくりの話になっているんですね。例えば今、鈴木委員が言ったように、子どもがというのが頭にくるとすれば、一番の網かけのところは心ゆたかな人になる上で大切にすること人づくりのような。自分で自己有用感を感じて自己肯定感をきっちり持っていきましょうという意図であれば。そっちの方がなんとかスッキリするかなという気はしますね。難しいですね。

●鈴木委員

これは無くてもいいですか？

●鈴木教育長

無くてもいいと思います。主語とかはなかなか明解にできない部分があるので、解説がつくゆえに、なんとかわかりにくくなるのであれば無くてもいいのかなと思います。先ほど鈴木委員は主語が子供でしたよね。僕は心ゆたかな人づくりっていうのは子供だけじゃないだろうと思うので、あえて無くてもいいかなって感じがします。

●鈴木委員

私も無くてもいいかなと思います。

●小澤教育監

自己肯定感というか自分はそこが前回作成するときに拘っていて、自己肯定感って親の存在ってものすごく大きいものだから教師だけじゃないし、子育てに関わるし、みんなにかかっていることからすると幅広い意味があるから、持っているものによって色々捉え方があるから逆にそれがいいのかなと思うし、議論を突き詰めていくと、いろいろな考え

方もあるものだからという感想を持ちましたので。ある意味、どっちとも取れちゃうのがいい面もあるし、難しい面もあるかなというふうに思いました。

●大場市長

網かけの文章はやめましょう。

●鈴木教育長

あまり基本方針に解説はつけないほうがいいですよ。基本方針というタイトルのもとに自己肯定感の自己肯定感を育むみたいなことが書いてあればいいのではないかと思います。

●大場市長

じゃあ、まずこれはやめましょう。いいですね。すっきりしまったね。

ではそのうえで、1, 2, 3 基本方針に書かれてますが、今言われる議論になっている自己有用感、自己肯定感という言葉、これ自体がある意味ブームでした。この4~5年前っていうのはそれでよく使われた。今、時代的に合わないんじゃないか、もしくは、ありのままのあなたがいいんだよということ。今、時代的にはそういう言葉がよく使われています。そんな言葉がいいのではないかとかですね。ご意見がありました。ではこのそれぞれの1、2、3。一つずついきますか。一つずつ。じゃあ、まずは自己優用感と自己肯定感を育む。これはどうでしょうか。

●吉田委員

先ほどの繰り返しになってしまいますが、やっぱり自己有用感のところは考え直したいというのが個人的な感想で、でも自己肯定感は大事にしたいというのが感想です。

●大場市長

先ほど小澤教育監は自己肯定感が非常に大事だということでしたが。

●小澤教育監

あの根拠のない自信がある子という言葉聞いたことがあるのですが、何があってもすごい自己肯定感が高くて、どんなことになってもへこたれないっていうような子が、プロ野球選手でもリアルベースボールってあるじゃないですか。余分な話でごめんなさい。この人は、本当に自分に自信があるのだよっていう根拠のない自信があるっていう人が自信満々にできなくてもやるっていうか、生き抜く力みたいな感じ。例えば悪いですけど、そういったベースになるものかなと思っているけど、でも自己肯定感はやっぱ育てるのがすごく大変だと思うのですよね。生まれた頃からずっと育てる大事なことだと思う。

でも社会の中で、吉田委員が仰ったように、それが重荷っていうところもあるのかもしれないと思うけれども、でも人のために役立ったっていう、何かやったことによって、

それで自分の自己有用感が高まるということもあるものですから、自分自身はそれ両方つながっているのかなっていう思いでいました。そのような解釈を自分はしていました。

●大場市長

そういった方も多いと思いますけどね。

●鈴木委員

この自己肯定感の順番を前回議論したと思いますが、役に立って初めて肯定できたんですが、でもまずは肯定からスタートかなっていうか、自己肯定感、自己有用感を育てるってことを、私は最初にこれをいただいた時に順番は逆でもいいかなって思いました。「ありのままでいいよ」と言っても、ありのままのままであればやっぱり成長していかないのかなと。やっぱりその、自分がありのままでいいのは、みんながありのままであればよかったら、うまくいかない。そこに共感するとか、やはり相手のことも認めるというのが必要になってくる。となると言葉がすごく難しいな思いました。

この自己肯定感って、小さい時にやっぱり肯定されないで育ってきてる。就学前なんか家庭的に欠落している部分っていうのはすごくあるなって感じました。小学校上がるまではみんな認められてきていた、昔は。可愛い可愛いって。多少勉強はできそうもないかなと思いつつ、でもそこは無くなってきているかなって感じますが。

私は、自己肯定感、自己有用感を育てるみたいな形で、私はいいかと思います。

●鈴木教育長

前回、順番で結構議論したのですよ。結構こだわりがありましたよね、皆さんが。それでこういう順番、その自己肯定感が先で、自己有用感は後からって言うよりは書くかなみたいなと思います。難しいね。

●大場市長

難しいですね。自己有用感って、子ども自身の感じ方、思い方ですごく変わるのだろうなっていうのを実は思っています。例えば2人兄弟いました。まあ下の子が後で生まれて。幼いから大丈夫か親が目をかける。そうすると上の子が、「あ、やっぱり弟妹の方が可愛いのだ、私なんかなくてもいいのだ」みたいな。親としては決してそんなことないのに、子供自身がお姉ちゃんお兄ちゃんの方が自分と比較して弟妹の方が声をかけられる、心配される、「お兄ちゃんだからしっかりしなさい」って言われて、「ああいいんだ、私なんか」みたいなことになる場合もある。それで親としては、私も民間教育携わる中でよく聞いた話ですけど、同じように育てたんですけど、全然違うのですよと親たちは言いますよね。親がそうかもしれないけど、子供としたら感じなかったとすると全然違って、親の思うように同じように育てられたとは全く多分思っていないと思うのですよ。なので、感じ方だと思うのです。肯定をするのも有用性を自分で見つけるのも。だからそこで、結構迷ったと思うのですよ。この自己肯定感、意欲感を育むっていうのがちょっと逆に言うと、ある意味自分なりに難しさがあります。あくまでもこれは本人の感じ方すごく大きいので、それをどういうふうに育ててあげようか、気づかせてあげようか。子ども自身です

よ、小さい頃から。それって実は難しくて、ただ単に学校教育として、それを認めてあげよう、本当に大事なのはあなただよ。あなたがいないと、本当に周りだって寂しいし言ったところで、もしかしたらその子には全然響かないかもしれないじゃないですか。だから、これって実は本当に難しいことだなという気がするのですよね。だからそれをいい表現で有用感、肯定感、もしくは他の言葉で、というと難しいですね。考えれば考えるほど難しいですね。

●鈴木教育長

実は、自己肯定感だけではないですが、関する本を読んだことがあるのですが、自己肯定感という大きな木を育てるときに、実は自己有用感っていうのは、木に例えるとその木になっている実だと。本当はもっといっぱいあってですね、自尊感情とか自己受容感、つまりありのままの自分を受け入れる。それから自己効力感、自分にはできると思える感覚とか、自己信頼感、自分を信じられる自己決定感、自分で決められると。一つとして自己有用感があって、総力とすると自己肯定感が高まりますよっていうその人の議論だったのですよ。

つまり自己肯定感って木を育てる中の自己有用感っていうのは、そうなった実に例えられている話がありました。その人の理論だと自己肯定感が中心だったので、ああ、なるほどなと思いました。

●鈴木委員

私、教育やってる時にはよく言われました根っこを育てなさいって。根の部分を大事に育てなさいってよく言われました。

●鈴木教育長

自尊感情が根っこにあって、幹の部分が自己受容感みたいな話で書いてあるのですよ。で、自己効力感とは枝だという、そういうような話をして、すみません、その人が整理していたので自己肯定感が、ある意味一番大きな大切なものとして包含されているのかなというふうに思いました。

●鈴木委員

ある意味、子供って根拠のない自信を持っていてもいいと思う。それでないとチャレンジできないから。

●大場市長

そうですね。いいと思います。それはやっぱり知らないことの強さ、わからないことの強さとか、それってすごい大事じゃないですか。

ちょっと切り替えて2番に行きます。次の2番に自ら行動する力と他者と協働する力を見つける。共生共育みたいなことですね。

●溝口委員

共生という意味では、他者と協働する力っていうのも当然いるんですけど、他者を認める力とかね、これをここに入れるのか、ちょっと1番のところに戻っちゃって、1番の自己有用感、自己肯定感の次に、何か他者を認める感、いい言葉がさっきから出てこないんですけど、そういうのが3つ繋がれば面白いなとは思っていましたが。まあこの2番でもいいと思うんですけど、協働するっていうのと認めるっていう、なんかそういう力をつけていくっていうのが、これから結構重要なのかなっていうのは思いますね。

●大場市長

先ほど寛容っていう言葉を言いましたが、やはり受け入れる、許すことの心とか、そういう意味で寛容も、いいかもしれないっていうか、フレーズとしてはいいかもしれないですね。

●吉田委員

他者を許容するっていうのにプラス、なんか失敗も許容強要されたいですよ。失敗もいいよっていうのがないとチャレンジする。自ら行動する力にはつながらないので、その辺入れてもらえたらと思います。

●大場市長

まさにその通りで、寛容に社会があってこそチャレンジすることになりますからね。

●吉田委員

あともう一個、その他者の寛容に関連するけれど、この黄色で新しく追加されたところで身につかなければならない資質や能力をバランスよく兼ね備える必要があります、あるんですけど、なんかバランスバランスって割とおっしゃるんですけど、個性はバランスが取れてないわけですから、多様性を認めるとかだったら、やっぱバランスよくってそんなに気にしなくてもいいのではないかな。で、得意なところがあって苦手なところがあるのが普通で、苦手なところがあるから他者と協働する必要性もあるし、面白さがあるわけで。ちょっとそこは引っかかる場所ですね。

●大場市長

そうだね、アンバランスの美学とかね、アンバランスの力はやっぱりいろんなところで評価されていますし、そういう人がノーベル賞を取ったりしますもんね。確かにおっしゃることはよくわかります。

●溝口委員

今、吉田さんが言ってくれたのが、その基本方針の2のところの黄色で書いてくれているところだと思うんですけど、最初の基本理念のところの「心ゆたかな人づくり」のところを見ると、そこの下の文章に心ゆたかな人づくりを基本理念に知徳のバランスのとれた教育を推進してきました。今までそういうのをやってきたのだけでも、これから変化が激

しいので、こういうふうに変えていきますというような書き方になっていて、さっき言ってくれた基本方針の2番の細かい資料の中では、バランスよく兼ね備える必要があります、ちょっと何がバランスよくっていうところの書き方が違うんですけども。

●大場市長

提供する側からすれば、バランスよく提供します。受ける側からすれば、そのアンバランスでも。さっきの主体が誰かじゃないけども、提供する側はバランスよくでもいいですよ。そうですね。やっぱり受け手、出し手を仮に区別して表現すれば、それはそれで価値はありますよね

●鈴木委員

そのバランスのところで、特別支援教育について、苦手なところを直そうというのは特別支援教育が今求めるところではなくて、その苦手さが目立たないように得意なところの枠を広げていくことによって、この欠点の部分が小さくなっていく、そういう考えなのです。もっと個性や能力をみんな発揮できていくといいし、それはバランスの取れない子もいっぱいいる。そこを認めてやらないといけませんよ。

●大場市長

よく言う話ですけどね。できないこと探しじゃなくて、やっぱりできること探しをしましょうよ。それでできるものより高められるものをということで、それこそ肯定感につながることで力につながってきますよね。で、ちょっと気分をまた変えて、3番の学びたいときに誰もが学ぶことができる環境を整える。これやっぱりさっきの主体じゃないですけど、明らかに表現上、違いますよね。

●鈴木委員

私は、逆にこれはこのままでいいかなと思ったのですけど。その4ページにあるようなリード文だと学校教育が狭いなど。もっと多様な学びがあっていいし、学校だけではないし、学校に行けない子も増えてきているっていうあたりは、もっとここを変えれば、誰もが学びたいときに学べるという、それは子供のうちだけではなく大人になってからでも学べる環境が袋井市にはあるよというのが大事だと思います。学校教育だけではなくて。

●大場市長

これ3番に関して言うと、みんなの環境を整えるということに言葉にも表れているように、やっぱり先ほど言った社会教育、家庭教育、学校教育ということ、学校教育での環境をどういうふうに整えましょうかという文章ですね。学校教育中心になっているのです。だからそれをより幅広くした方がいいのではないかと。家庭教育も社会教育も含めた意味での教育環境を整えたら、どう整えるっていう表現で作ったらどうですか。

まず範囲をより広くしましょうよ。今ご意見と、その範囲を広めていくと、このリード文のところの説明は、あまりにも学校教育に偏っているので、それをより広くしましょうということですね。

それらを考えると、この3番目のポイントって、1、2はちょっと置いておいたとしても、3番は子どもたちを教育する環境整備についての表現、それはいいですかね。ちょっと1と2番とは対象がちょっと視点が違うということで、この3番に関しては、その環境整備についてどういう環境を目指すかということについて言いましょう。それに関しては良さそうですか。

●溝口委員

もともとの基本理念が心ゆたかな人づくりをしましょうということなので、そういう意味ではいいと思いますよね。

●大場市長

いいですね。

●鈴木教育長

ここのリード文は別にしても、基本方針はもともと大人も子供も入っていると思います。この表現そのものは、一応子どもも大人も全世代包括していると思います。

リード文を直せばいいじゃないですか。

●大場市長

じゃあ、3番目の基本方針の文章を学びたいときに誰もが学ぶことのできる環境を整える。これは良さそうですね。じゃあ、一つ決まりましたね。

●山岡教育企画課長

前回の議論を読み返してみますと、やはりここは子どもも含めて子どもも大人も、子どもも子どもなりに、大人も大人なりに、社会、家庭、みんなであってというそういうような意味合いが入っていると書いてあります。

●大場市長

ではそういうことでいいですね。あと先ほど溝口委員が環境を整えるということに関して、ここ4年間使ってきたわけですから、同じ言葉で環境を整えてきたはずだから、成果はどうだったかと。それについてどうなのという視点がありましたけど、それはどうでしょうかね。

●鈴木教育長

でも多分、環境を整えることに終着駅は無いと思います。常に環境を整えなくてはいけないと思うのですよ。常に整えないと。おそらく時代が変われば求める学びが違うかもしれないし、ある意味ハード的なものはいつだって整え続けなきゃいけないので、ここは例えば環境を充実するなんて言ったって意味がわからないかなと思うので、やっぱり整えるっていう方向性を示すことが必要なのかなと私は思います。

●溝口委員

普遍的な考えであるっていうことであればね、それはいい。

●鈴木教育長

評価するかは、政策になるのでどこまで行ったかっていう評価はしなきゃいけないと思っています。そこは個別の計画で評価するということだと思いますが。

●吉田委員

市民からすると受動的だなというのが気になっているのですよね。例えば自分で何か作り出していくみたいな。その関わり方っていう意味で、大人だったらただ受け手じゃなくて、社会教育の学級や楽器をやるとか何かを作るとか、学びの場を作るみたいな、みんなで作って行こうような雰囲気を出せたらいいのになって考えていて。地域も含めてのニュアンスもでるといいと思いました。

●鈴木教育長

主体はおそらく、教育関係者だけではなくて、地域の人たちも整えるってことはやっているんだけど、例えば子供のことやっていたり、いろんなフリースクールでやったりするわけですから、整える主体はやってくれているじゃないですか。そうすると、リードの文の方に、つまり公ではなくて地域もみたいなことをちゃんと書けばいいんじゃないですか。社会教育、家庭教育も含めてみんなが主体だってことがリード文わかればいいんじゃないのかな。

●溝口委員

それだと確かに分かりやすいと思います。最初に言ったのは、ここだけ我々がやることであってと思いますけど、あのリード文を見るとね、そうじゃなくて、みんながやってるんだよというのを主語に見えるように。

●吉田委員

やっぱりみんなが主体。結局はそうですね。やっと整理できてきました。

●鈴木教育長

そうそうみんな一生懸命やってくれているのです。いろんな集まりだって子供たちがやったり大人がやったりしているじゃないですか。やっている人たちがみんな主体性を持ってやってくれていますね。

●石黒教育部長

この表の一行の中ではなかなか表現できないものですから、今回あの個別のこの表の中の第三のところのところに個別のところのところに黄色でマーキングしてあるのですが、「社会総がかりで学びを支えながら」という言葉を加えて、この一語には表せない事務局側としての想いを入れています。

●吉田委員

でも学校教育重視している、先に来るから。

●山岡教育企画課長

前回の時には幼小中が始まった時だったので余計にここに入れています。

ただ、ここはもう走り出しているということであれば、ここを残すか残さないかを含めて整理していただければと思いますが。

●鈴木委員

学校でなければできない教育っていうのも気になります。

●鈴木教育長

きりがいいですね。

●大場市長

では言葉としてはこの3番。まずはそのままでいきましょうか。

じゃあちょっとまた1番に戻って。自己有用感、自己肯定感ですけど、戻ったついでに改めてこのリード文を見ていただきながら、ここにもね、何かヒントがあるかもしれないので、この1番にはどういう内容で、何を表現していこうか、先ほどの議論の中では、有用感とはもかくとして、肯定感っていう言葉、自己肯定感というのは残しても良さそうな雰囲気でしたけど。

●鈴木委員

それだけでもいいのではないのでしょうか。共感する力がとても大事だとよく言われています。

●溝口委員

自己肯定感とその共感する力っていうのもいいですね。

●吉田委員

もう自己肯定感でいいのではないのでしょうか。

●溝口委員

包括してリード文の中で説明するでもいいもではないのでしょうか。

リード文でなんとなくわかるような表現にしてくれば、いろいろ包括したのが自己肯定感ですよみたいな文章にしてもらえればいいですね。

●大場市長

自己肯定感を優しい言葉で表せないですからね。そうですね。なんとなくそうなんですけど、固いですよね。

●鈴木教育長

固いですよね

●鈴木委員

あなたはあなた、ありのままでいいってことですよね。

●石黒教育部長

前回の議事録を見ました。皆さん言っている通り、前回もどっちが先かみたいな議論が相当あったような記録があって、でもそのどっちが先ではなくて、両方大切だよと。先ほどあった平成 29 年に幼小中一貫教育を作って、たくましく次の一步を踏み出す 15 歳というテーマがあって社会に貢献するような子たちを義務教育で育てていくっていう理念があった上で、令和二年に見直しをした時に、最終的にはどちらが先か、両方とも大切だけれども、袋井市として自己有用感を育てていきたいと思いますというのが、大きくあるならば、そちらを前にしてもいいじゃないかというようなことで落ち着いたような形に書いてあります。

●鈴木委員

そうです。自己有用感っていうのは、袋井市はそこを求めましょうっていうのを私が現役時代のころからやっていて、それが生きているのです。

●山岡教育企画課長

そうですね。そこから時の歩みもあるものですから、今に応じてというところであれば、今に応じた整理をしていただければいいかと思いますが。

●石黒教育部長

鈴木委員が先ほど言われた社会の担い手という言葉が強いのであれば、創り手ですとかね。何でも社会に貢献しなきゃいけないという意識ではなくて、多様な方々がいた中の一員としてっていうことであれば、何でも自己有用感っていうことが弱まってもいいのかもしれない。

●鈴木教育長

自己肯定を優しい表現で言うとね、非常にいい感じがしますよね。

●大場市長

まずは今のところ、自己肯定感でいいじゃないですか。

今のところ 1 番。表現をまた検討するとしても、「自己肯定感を育む」ということで。まずはその候補でいきましょう。また他の表現があるかどうか検討してみましようか。

では、2 番。自ら行動する力と他者と協働する力を身につける。

これまで、さっきの議論の中で言った共生とか協働とか寛容とか、寛容な環境があるからチャレンジできるとか、そんな言葉で出してもどうでしょうか。

●鈴木教育長

これも子供だけじゃないのでしょうけども、幼小中一貫教育の力をつけさせたいっていうのは、自律力と社会力っていうのを謳っていて、まさにこのことですね。自ら行動する力と他者と協働する力、自律力と社会力を身につけましょうっていうことを謳っているので、多分それって普遍的かなって感じがするのです。まあ一方で、その先ほど言った皆さんがね、あの他人に共感しましょうとか受け入れましょうという話は、どこかに入れるとすると、溝口さんが言ったように、心ゆたかな人づくりの定義になんか入れてあげてもいいかと感じがしました。その上で、自ら課題解決だったり、行動する力だったりというのと、他人と協働するときには他人受け入れられないと協働できないので、そういうところで自立と社会力にも符合していると思って。

で、この表現で別に僕は支障がないと思います。ただ、さっき言ったように優しくとか受け入れとか寛容とかって話は、心ゆたかな人づくりの定義の方には確かに入れる要素としてはいいかなと思います。

●溝口委員

わざわざこの協働っていう、このこと漢字を使ってくれているところに、他人を受け入れる意味合いもそうですよね。なんか含んでいるのだろうと感じはしています。協力じゃなくてわざわざこの言葉選んでくれたのだろうなっていう気がします。

●鈴木教育長

協働的な学びですね。

●鈴木委員

私も 2 番目はこの文章でいいかなと思います。

●溝口委員

協働っていう言葉に他者っていうのは含まれているような気がしますけどね。

●大場市長

自分とその他はなんか隔てている気がしますね。完全に隔てているようで、自分もみんなの中の一員というそういう見方も必要だという気がします。

●鈴木委員

先ほどの「担い手」のところは「創り手」でいいと思います。

●吉田委員

あと、1 ページ目は「生きる」で、3 ページ目は「生き抜き」、「担い手」と「創り手」になっているのですね。

●大場市長

生きる力、これからの時代を生き抜く力、結構違うと思いますが。昔、県が一番最初に「生きる力」を使い始めたと思うのですよ、静岡県としては。多分 25 年ぐらい前かな、私の知っている限りそうです。「生きる力を育む」とか、「生きる力」を使い始めて、それを今は「生き抜く力」になっていますよね。

私もその時 25 年ぐらい前に感じたのですが、「生きる力」というと、生死観、生きる死ぬ の観に結びつけられることも多い。だから、「生き抜く」の方が生死観とはちょっと距離があく。だから今、自殺率も高まってきているということで、そういうことからすると、多分県は変えたのではないかなという気もしますが、皆さんどう感じますか。

私は個人的には、「生きる力」というよりも、「生き抜く力」という部分を使っていますけど。

●溝口委員

1 ページ目は、自分らしく人生を楽しみに生きるって書いてあるので、自分が人生の中を生きていくというそんなイメージで、3 ページ目は、時代なのでそこは「生き抜き」、だからわざと分けてあるのかなというように取れますけどね。あまり問題ないような気がしますけど。

●山岡教育企画課長

「心ゆたかな」というところでは、どちらかというと個の生き方で、そういったところで「生きる」という皆さんから重圧みたいな言葉もありましたので、そういった要素でここは考慮しています。次のところで時代をということになってきたので、地に足つけて「自分なりに生きていく」という、そういう意味合いがこもっています。

●溝口委員

そうすると、これからの時代を生きるではちょっと弱いですよ。

●大場市長

では、2 番、3 番はかなりの良さそうですね。1 番はどうですかね。自己肯定感を育むという、候補としては思っているわけですけど、それだけでいいでしょうか。もうちょっと加え、これを加えるところがあれば。

●吉田委員

優しい言葉があればいいですけどね。

●鈴木委員

あなたはあなたでいいのだよっていうことですよ。自分に自信をもって。

●鈴木教育長

ありのままの自己肯定できる感覚というよりは、自己肯定感のほうが良いのですよね。自己肯定感のほうがいいのですよね。それ以外ないから、これできているのですよね。

●大場市長

逆に補足する言葉とか、自己肯定感だけでいいですか。

●鈴木委員

いいのではないですか。

●大場市長

日々明るく楽しく生きられるような気持ちを育んでもらえるといいなと僕は思います。

●鈴木委員

うん、そうですね。同じことがあっても笑って過ごせるのが望ましい。
ああ今日も一日よかったなってね。

●大場市長

同じことがあっても、「今日もいい日だったな」とか「逆にいい日だと思う」みたいな。ポジティブにね。
大変だったとしても、なんとなく、明日は明日があるさみたいに笑って過ごせるのがいいなと思うのだけど。

●鈴木委員

子どもは生まれてきてよかったっていうことではないかなと思います。そう思うようにしてあげたい。

●大場市長

子どもは弱いけど、すごく強いと思うのですよ。弱いけど、強いところもあって、その強いところを信じてあげるっていうのも大事だと思うのですね。親として、社会として
だから「今日大変だったね」「明日ちょっといいことあるよ」って言えば、素直にそれを信じて、「あ、そうか、明日いいことあるかもな」みたいな、そう思って明日が迎えらるような子になれるといいし、環境もそうなれるといいなと思います。

●鈴木教育長

ここを端的には難しいと思いますね。

●大場市長

総合計画は、「にぎわいずっと続くこのまち」あの言葉いいと思うのですよね。

●吉田委員

もっとポジティブさ、明るさがあってもいいですね。

●鈴木教育長

もっと、楽しい面白い、みんなと何かやると面白い、そのようなものがあるといい。

●大場市長

そういうことを感じさせる何かを

●溝口委員

今、自己肯定感とポジティブマインドが同じ言葉かなと思って調べたら、どうも違う言葉みたいで。カッコしてつけようかなと思ったのですが、ちょっと違うみたいですね。

●吉田委員

確かに1番最初に自分らしく人生を楽しみに生きることができるように人づくりするっていっているから、ポジティブさは出てるのかとも思います。

●小澤教育監

現行のところを見ると3行目のところのリード文のところに、「幸せに生きるということとは、多くの市民の願いです」と書かれています。改定案の元原稿の方ですけれども、「しあわせに生きる」というのが、いわゆるそのウェルビーイングにつながるということがあって、明るさでいうと、の議論を聞いていてつながるのかなと思いました。

●鈴木教育長

この前のリード文になんか幸せ感とか入れればいいのではないですかね。僕はこのリード文の「本市では～」という上の3行は要らないかって気がするんです。ただ、「変化が厳しく」から始まってしまうとなんか暗く感じるので、そこに楽しくて笑って過ごせるとか、なんとかなるさみたいな感じが出るといい。

●鈴木委員

そういうこう具体的なことがまた難しくなっている。

●鈴木教育長

ポジティブマインドも感じられてきますね。自己肯定感とポジティブマインドを並べたい感じはしないでもないですけど。ポジティブマインドとはなんだという話になってしまいかもしれませんが。

●石黒部長

自己肯定感は自分の中の感情で、自己有用感は周りからの中においてという中で自分も認められている。それが「楽しい」や、グループでの意味合いの中で、今までもあったのかなど。そうすると、先ほどの教育長の大きな木と、それによって自己有用感という実がなるよというのを含めると、自己肯定感という言葉とそれに似た言葉を並べるだけだと、個人だけでなんか偏っちゃうような気がして。周りがいて、そこに認められている、そこと一緒になって生活できて楽しいみたいな、自己有用感的な。すみません、また戻してしまったのですが。

●小澤教育監

部長と関連しますが、基本方針の方の現行のところで、多様な人々と学び合うとともに、ここに「共生」が出ているんですよね。そうすると2ページ目に出てきているのとダブってしまう。自己肯定があって、みんなで楽しく生きましようというような考えですか。

●吉田委員

その「心ゆたかな人」の定義の中に、みんなとも楽しく過ごすような、そういうマインドを持つ人とか、入れられないでしょうかね。そもそも、心ゆたかな人とは、この3点で、あとは共生入れて、この辺も整理し直さないといけないんじゃないかなと思います。

●山岡教育企画課長

心ゆたかな人の定義ですが、生涯にわたって、好奇心と情操と意思という形であるんですが、これを3本でなくてもいいのかもしれない。もし、ここに何か理念というか、大きなものを表すものを入れるとしたら、先ほど皆さんおっしゃっていただいた「分け隔てなく」とか「寛容さ」そのような「受け入れる。受け入れられる人」のようなところをここに入れると全部包含するか、そういう形になるのか。やはり郷土への愛着とか誇りという情操豊かとも、もちろん根底にあると思うのですが、多分この時は、特にレガシーみたいなことを強く言った時代的な部分もあるかなと思います。そういったところに今ですと、「寛容さ」みたいなところがより表に出てきた方が良いのであれば、おっしゃっていただいたようにここに入れてしまうのも一つかなとは思いました。

●鈴木教育長

自己肯定感しかないので、「自己肯定感を育む」にして、少しリード分の方でそれを作ればいいかな。

●大場市長

では、まずはそういうことにしておきましょう。リード文でそうした明るさであったり、ポジティブさであったり、そんなことを表現していくということで。まとめますと、1番は自己肯定感を育む、2番は自ら行動する力と協働する力を身につける。3番は、学びたい時に誰もが学ぶことのできる環境を整えるということです。よろしいでしょうか。

では、基本方針としては、そのような形で最終案を作っていただくということでお願いいたします。

そしたら、それぞれの2ページ以降の基本方針に従ったリード文はおそらく変わると思うので、今、議論は省かせていただいて、他に何か気づいたこととかあればお伺いしたいと思いますが。この基本理念の「心ゆたかな人づくり」の心ゆたかな人とは、ということで説明がありますが、この3行はいいでしょうか、この表現で。念のためちょっと皆さん改めてご確認をお願いします。

●鈴木委員

ここの部分は少し変えた方がいいと思います。

●鈴木教育長

他者を受け入れるとか共生とか寛容みたいなのを付け加えればいいですよ。

●大場市長

ではそれを加えますか。それも付け加えてもいいと思います。

●吉田委員

こころざしを持って未来を拓く意思の「思」って「志」の方がいいと思うのですが。

●鈴木委員

難しいね、思いか。そこは「思い」を使いたい。

●山岡教育企画課長

ここはあの、前回のものを踏襲したいと思いがあろうということですが、そのままにしました。

●大場市長

こう思いやりの心みたいな、それがここに含まれているのかな。寛容みたいな、そんなことも含まれるのかな。優しさ、人の気持ちが理解できるように思いやりみたいなもの。それが欠けているかなって思いますね。

●吉田委員

他者への寛容とか、その辺に含めて一文そこに入れればいいと思うんですが。

●大場市長

寛容であったり、思いやりであったり、ポジティブな姿勢とか、そういうことを加えていただいて。お願いします。

ほかに何かありますでしょうか。

●平野未来の教育推進室長

部長がおっしゃった自己肯定感、自己有用感、すごく引っかかっていた。自己肯定感というのは、自分だけ自己肯定感だけ強ければ自分勝手なのですね。自己有用感というのは、相手があつて認められることによって、受容的な話がそこに入ってくることが大事なと思っていました。もっと簡単な言葉で言ってみたら、「これでいいのだ」が自己肯定。自分で自己肯定感が高くないと、これでいいなっていうことは言えないので。

先ほどの寛容っていうのはちょっとどうかなと思うので、認められるというのは自己有用感であるし、これでいいのだという、この二つでと私は思っていました。

●大場市長

ありがとうございます

今、県ではウェルビーイングの言葉をしきりと使われていて、もちろん袋井市でも3年ほど前から使っていますけれども、県は資料には必ず入れてきますからね。

それでは皆さんよろしいでしょうか。まとめていただきましてありがとうございます。では、進行の方は以上とさせていただいて、進行を事務局の方にお返しします。

●石黒教育部長

はい。長時間にわたりありがとうございました。様々意見が出て、事務局を悩ませるのかなと思ったのですが、聞けば聞くほど、皆さんの意見がもっともだなと聞かせていただいて、最後は意見が違うことなく寛容さと思いやりという言葉を入れさせていただきます。冒頭言ったとおり、いただいた意見をもとに、このリード文の部分を事務局として言葉を考えて1回委員の方にお返しをした後、行政手続きである議会、パブリックコメントに進んでいきたいと思いますので、またご意見をよろしくお願いいたします。今後の予定としましてこの会議としては、最終案をご確認いただく作業として、1月19日に予定をしておりますので、近くになりましたらご案内させていただきます。それでは時間いっぱいご議論いただきまして、ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

5 閉会

(午後3時28分閉会)